

松山1/2

| NO | ご意見・ご感想   |
|----|---|
| 1  | 大変よかった。   |
| 2  | ・アメリカ産牛肉は20か月齢以下はBSE検査をしない方向にあるが、月齢が特定出来ない以上、仮に今後アメリカでBSEが発症した場合は20か月以下の当該牛であっても、全て21か月以上とアメリカ当局から報告される不安がある。・8頭、9頭目は比較的若い牛であるが、交差汚染だけでは片づけられない面がある(第2プリオン)。  |
| 3  | 参加申込に対してきちんと事務処理して下さい。  |
| 4  | ・飼料として使っていた肉骨粉は、現在どの様に処理されているのでしょうか。まさか「廃棄物」として自然を汚染しているのでしょうか。・結局、BSE発生の原因である異常プリオンがなぜ発生したのかが判明しないのが問題だと思います。草生動物である牛に、肉骨粉(まして共食い)を飼料として与えていたとは驚きです。今、鶏の飼料にもフェザーミールを与えている現実をどうお考えでしょうか。私達人間が今、何を食べて生きていくのかということをしっかり確認して、国民をひっぱって行って下さい。そのことが農水省の真の仕事だと思います。検査ばかりしていても意味がない! |
| 5  | 「食品安全委員会」の基本姿勢としては、リスク評価に対し、政策的な経済性を優先させることなく、より公平な国民の食の安全を求めた評価をしてほしい。また、せっかくコミュニケーションを行うのであれば、その結果を施策に取り入れていくべきだと思う。  |
| 6  | 中間とりまとめでなく、今現在問題としている米国産牛肉輸入再開問題を取り上げてほしかった。BSE発生防止(取組)は行政+農家+飼料会社でやれば良い。   |
| 7  | リスクコミュニケーションの重要性を再確認しました。多くの人にこのような機会をもってほしい。   |
| 8  | なぜ20ヶ月かということとはよくわかりませんでした。安全性に差がないことと20ヶ月で切るとは別だと思うのですが、その説明はリスクに変化なしだけではよけい不安(米国のため)との意を強くします。   |
| 9  | 米国でのBSE牛発見が2003年12月とありますが、米国でのと畜業者の内部告発でそれ以前にもBSEと思われる牛のと畜をしたという報道がありました。輸入再開に向けて日本での受け入れを現状(全頭検査)で対応してほしいと思います。  |
| 10 | 少し内容がずれますが…。・ゼラチンについて。BSEが発生した後作られた牛ゼラチンはあるのでしょうか。又、古いものでも牛ゼラチンに不安は?今、豚ゼラチンに変えていますか…。   |
| 11 | 消費者の安全への信頼という意味では、全頭検査のわかりやすい(感情的部分含め)基準は信頼感につながっている。BSEの早期発見という意味では、ご承知の通り青山学院大学の〇〇先生等検査技術も基礎になっている。早期の見直しを。   |
| 12 | 安全対策と消費者の動向。農政についてもっとくわしく!  |
| 13 | 今後ともリスクコミュニケーションに努めてほしい。  |
| 14 | 一般消費に理解が得られる様にしていきたい(テレビ、新聞による報道等)。   |
| 15 | ①化学的根拠に基づき説明されたい。②アメリカ・カナダにおけるリスク評価を早急に公表されたい。③3年後のと畜検査については、全国の自治体が統一した行動をとるよう指導されたい。  |
| 16 | 米国のゴリ押しに屈することなく対応して頂きたい。この際に“公の安全は高くなく”という認識を、消費者に持って頂くよう政策誘導願いたい。  |
| 17 | アメリカ輸入牛のリスク評価を第一にすべきでないか。我が国のBSEは大きな成果を上げており、現行の全頭調査などを堅持強化すべきである。厚労省の諮問の動機が隠されていることに不信感をもつ(真意は米牛の輸入再開にあるのだ)。安全優先が厚労省の使命のはずです。  |
| 18 | 知識はある程度もっていたが、より深く勉強になった。   |
| 19 | 今後ともこういう機会を多く作るよう努力して欲しい。   |

松山2/2

| NO | ご意見・ご感想   |
|----|---|
| 20 | 現在アメリカからの牛肉の輸入再開に向け協議中であるが、それらと連動する答申であれば消費者・国民の理解は得られない。全頭検査を希望する県は今まで通り実施すれば良いのでは。食の安心・安全は何事にも勝る。   |
| 21 | 食品安全委員会の主体性は？農水省や厚労省の意見をただ追認するだけの印象。(整理、検証、検討、推定、推測…そんなことをするだけ?)消費者の立場に立って、もっと言うべきことはしっかり言って欲しい。世論のあと押しが得られないと信頼につながらないと思います。                               |
| 22 | 20ヶ月以下の検査を中止して、メリットが少ない。  |
| 23 | 今回、説明会の中で、情報公開をして透明性を高めているといわれた姿勢が一番評価できた。  |
| 24 | ・時間の制約上要点をしぼっての説明でまあその範囲内では納得出来たのかなという思いなのですが、中でも一番気にかかる事は飼料がほとんど輸入に頼っている現状に対して、この飼料の安全性に対しては不安がぬぐいきれないところです。・今回の資料はわかりやすく、具体例(SRMの写真等)が出されているのはいい提供だと思います。 |

| No | ご意見・ご感想  |
|----|--|
| 1  | リスクコミュニケーション(現状)の在り方については、どの地域でも限られたメンバー(同じ顔ぶれセミプロ)で形成されており、一般国民(サイレントマジョリティー)の意見は反映されていない。リスク評価側もリスク管理側も一般国民に正しいことをきちんと説明する責任がある。   |
| 2  | 日本では、全頭検査が実施されていることに安心している。しかしながら、米国牛の輸入が急がれているようであるが、厳しい条件を前提にして輸入を許可すべきである。輸入条件:①20ヶ月令以下の若牛であること。年令の確かな証があること。②SRMの徹底。米国からの輸入は急ぐべきではない。  |
| 3  | BSEに感染した牛肉をどのくらいの量、回数、期間食した場合に、人体に影響が出るのか知りたい。   |
| 4  | 感染拡散防止出来ていることについて、安心感が非常に深まった。ありがとうございました。   |
| 5  | 発生の仕組みについて解明できていないままに、対策など解決策を模索しなければならないという極めて難しい問題であること。「100%安全な食品」を求めることが難しいことも理解される。   |
| 6  | 安全、安心は1つ1つの積み上げの中からだと思います。輸入については、安全が確認されてからお願いします。  |
| 7  | 私は獣医師のため、②③似ついては問題なかったが、一般の消費者にとっては疑問である。①については毎年多忙な時期で出席に苦勞した。意見交換時の進行については、疑問あり。テーマに関係なく発言する出席者が多いようである。この為④の結果になったのではないかと考えます。☆終りに「リスクアナリシス」の理解を深めていかなければ、このような意見交換開催は困難であると考えます。   |
| 8  | 肉骨粉、代用乳等の混入追跡調査結果公表も含め曖昧さを残している。全頭検査の助成期間(県独自検査)が切れた以降はやらなくなって、消費(購買)不信に繋がるのが充分考えられる。21ヶ月以下は絶対問題ないとする見解が明確に出されるべきだ。またホルスタインのみ出ているが、若令肥育が進むと和牛も含め心配がないか(和牛はなぜ出ないのか?)。*****化しているのでトレース問題に生産者支援事業を拡充すべきだ。   |
| 9  | 意見交換会に出された意見等を委員会の委員にきちんと報告して、議論いただきたいと思います。   |
| 10 | 途中で、食品安全委員会の見解なのか農水の見解なのか分かり難い所があった。食品安全委員会の活動に期待しています。  |
| 11 | <p>・毎日新聞16年12月24日版に、「生後20ヶ月以下の牛に限り輸入再開する方向が決まった」とあるが、この記事はいったい何か?・食品安全委員会はマスコミ対策(誤報対策)を早急にすべきである。「勝手に書いている」と放置したまま国民に誤まった情報を提供し続けさせるのは世論操作を放任、了承、黙認しているのと同じである。リスク等に出席したメディアの個人名を公開し、記事に責任をもたせるべき。特に共同・読売・産経の報道は恣意的なものを感じます。・プリオン専門委員12名の全員の意見を反映させるべき。中間取りまとめ案も密室で作成された感が否めない。座長の意見が会の意向を代表しているとはとても思えないのに〇〇先生の個人的見解が食安委の決定事項として報道されている事が多い。・議事録などのHPのUPが非常に遅い。マスコミが正しく報道しない以上、国民に早急に正しい情報を提供する必要がありますので、大変かとは思いますが何よりも優先して下さい。少なくとも月内、希望は1Week内。・死亡牛検査が行なわれるまで酪農牛などの安楽死が普通に行なわれていたとのこと(毎日新聞)これでは、今後の発生予測の為のデータなど正しく出せるわけがない。数値を出すこと自体が誤まった方向に対策を導いているので、適当な数値を出すのはもう止めて下さい。・〇〇委員が20ヶ月に拘り続けるのは何故か不思議に思う。プリオン専門委は「月齢では区切れない」としている。・消費者で閾値もわからない感染潜伏牛を食べたいという人はいない筈ですので政治的圧力に屈することなく宜しくお願いします。・プリオンが専門でない〇〇委員が、21ヶ月、23ヶ月の牛を非定型牛では無いと誤まった発言を繰り返すので、農相まで誤まった発言をするようになったのは非常に問題である。委員として適性を欠いているのではないかと委員を続けるならばもっと勉強すべき。・「20ヶ月」という文言を削除することでプリオン専門委員会の決定があったのに、その次の本会議で突如20ヶ月が復活した経緯を公開してください。プリオン専門委全員の了承のもとにその文言が入られた訳ではない。このままだと食品安全委員会全ての議事において不信を覚えます。・カナダで米国から輸入した「食物性飼料」の60%から動物性蛋白が検出されるという恐ろしい事態が判明した。日本向け飼料の内容も早急に実態調査とDNA検査をすべきである。飼料管理が万全でなければ若齢牛での発症もあり得る訳で、20ヶ月で区切るどころの話ではない。</p> |

## ご意見・ご感想

| No | ご意見・ご感想  |
|----|--|
| 11 | <p>・輸入問題は「感染潜伏牛」製品を入れないことを第一に考えるべき。SRM除去がまともに出来ていないという警告が出た。人の嘘は科学では防げずそれらを防ぐのも食安委の仕事だと思います。嘘を前提にした厳しい提言をお願いします。・アメリカ牛は飼料管理に問題があるとの報告がありましたから、英国のように20ヶ月の発症もあり得るかも知れませんね。その場合、今の検査でも13ヶ月→17ヶ月で検出できるというEUの報告がありますから、とてもじゃないけど20ヶ月で区切るなど出来ませんね。報告書文面に「13ヶ月～17ヶ月」ときちんと入れて下さいませ。・英国では特定危険部位に絶対消えない蛍光インクを使い着色管理しているそうである。日本の管理は密室の為心配がある。日本も検討できないか？・SRM除去をして下さる方の資格や経験、教育システムはどうなっているのか教えてください。教育システムを確立させて下さい。・160ヶ所の屠畜場から回収したアンケート全てをWebで公開してください。消費者との接点がないので不安を生むと思われます。・12/22のプリオン専門委に関する報道で、TBSが「あと2回の会議で全頭検査を廃止することを決定する見通し」と報道した。やたらと具体的だが当日の会議で委員は一言も誰もそんなことを言っていなかった。食安委の誰がそんなことを言われているのでしょうか？毎度のことですが、・12/22のプリオン専門委は10時から始まったが10:18に共同通信が案の詳細記事を配信していた。また内容がマスコミに漏れているのではないかと委員の規律と良識を徹底させて下さい。・閾値も解っていないのに1/1000～1/500と異常プリオンが「微量」なんて表現は徹底して止めて頂きたい。潜伏期間が長くなるだけかも知れないし、牛は1mgで15頭中1頭が発病している。この表現が利害関係者に利用されている。・食品安全委員会は、食の安全を第一に優先する場があるべきですので時間の問題ではなく安全性を第一に、最新の情報にての判断をお願いいたします。</p> |
| 12 | <p>1. 安全委員会は独立して食の安全の為の業務を遂行されているが、歴史が浅い為、運営が幼稚。2. 大学の研究室ではないのだから、世の中の生の要請に適切に回答することが大切。3. 日本だけが格別に高いハードルを必要とするのであればその理由、根拠を明確にすべきである。</p>   |
| 13 | <p>座席が狭すぎた。</p>  |
| 14 | <p>BSE対策に必要な処置(検査、規制等)に必要なコストの負担についての議論がない。必要なコストの中身・額等について消費者に対して啓もうする活動を進めていくべき。何らかの処置や規制を行えば、コスト増になり、最終的には消費者が負担すべきで(現在はメーカー負担しているケースが大)この部分の説明等は行政しか成し得ないと考えます。</p>  |
| 15 | <p>全頭検査を進めて欲しい。消費者としては安心して食べたい。</p>  |
| 16 | <p>体制だけを整えても実際に実行されているのか、されるのかに不安がある。</p>  |
| 17 | <p>意見交換の時間をもっと多くしていただけたらと思います。</p>   |
| 18 | <p>・委員会の実体が不明(何をどの様に行なっているのか)広報が必要。・前の統計事務所職員が勉強情報不足である。・質問、解答など様々な立場からの意見が出てまとまりが悪かった。</p>  |
| 19 | <p>※米国に於いて、30ヶ月令以下は検査しないとのことですが、30ヶ月と確認する元となっているものは何か良く解らない。※日本は、牛肉に全頭検査をしているので、安全だというPRをもっと強く発表すべきではないか。</p>  |
| 20 | <p>・全頭検査はすべきだ。・20ヶ月未満の牛が仮に検査できなければ、市場に出さない。流通にのせない事。今の検査技術ではたまたま発見出来ないだけ。・検査精度を高めるべきだ。今の技術では可能ではないか。・アメリカ牛は、全頭検査では無いので不安だ。</p>   |
| 21 | <p>農水省の方が国産の自給率を上げる生産拡大振興に努力しているという事だが生産基盤に一番必要なのは人だと思う。近年就農人口が減っているのを上げる基盤拡大の策をお願いしたいし、そして、就農に希望の持てるものにして欲しいと思います。</p>  |
| 22 | <p>講演の速度がもう少しゆっくりだと助かったが…。本日はありがとうございました。安心した事柄が多く参加させて頂いて良かったと感謝しています。</p>  |
| 23 | <p>「サーベイランス」等、専門用語が多かった。意見は、今後の議論の参考に是非して欲しい。</p>  |

| No | ご意見・ご感想  |
|----|--|
| 24 | <p>・以前から感じていたが、国の縦割り行政を強く感じた講演だったし、講演自体も解り辛く、全く面白味のない内容だった。・科学の限界から分からないことがあり、確率的、統計的な数値による結果しか出すことができないことが分かっているながら、科学の限界から、検査しても検出できない可能性が高いというだけで、屠殺場での検査対称月齢を20ヶ月以上とすることに全く理解できない。・リスクを出来るだけ低くする為に行動し、それに係わることは全て行なうべきである。検査対称牛を少なくすることは、リスク低減の機会を少なくすることに繋がる。資金が足りないとか、低減させたいなら、行政をコスト低減、リストラ、減給を行なうべき。・20ヶ月齢以下の牛からは、異常プリオンが検出困難だったと考えられる決定要因は何？全頭検査で何百万頭検査して、その結果として、発見されたのが何頭で確立は何%？確率的、統計的なことで決定しているようだが、20ヶ月齢以下で1頭陽性だったら、確率的にはかなり疑わしい数値なのでは…？</p> |
| 25 | <p>開催の日時が悪い。</p>   |
| 26 | <p>・汚泥の処理について。一般の方がいる為、意見交換会での質問は控えた。浄化槽は、活性化汚泥処理をしている。それでも作物など(牧草)に影響があるのか。屠蓄場としては、今後の方針によっては、牛の屠蓄を止めざるを得ない(焼却等の施設投資は出来ない)。</p>   |
| 27 | <p>意見交換の時間が短かった。</p>   |
| 28 | <p>とにかく重要な蛋白源の供給が減っているわけで、早く、結果(検査体制、安全対応を決定)を出して、早急に輸入再開して欲しい。困っている人の方が多い。</p>  |
| 29 | <p>意見交換の意義があったように思います。</p>   |

水戸1/2

| No. | ご意見・ご感想   |
|-----|---|
| 1   | 少し不安は残りましたが、わかりやすく、来て良かったです。  |
| 2   | 司会者の声がとっても聞きやすかった。特に、意見交換の時の質問事項が聞きやすかった。21ヶ月以下の牛も検査すべきでは？  |
| 3   | ・たくさんの資料やOHPをこれだけ用意して下さったことに感謝。・時間(持ち時間)を気にしてか、説明が早くて分かりにくい部分もあった。専門的ではあるがもっと時間的にもゆとり研修したかった。・こんなにすごい対策をしていたことが分かり感激させました。  |
| 4   | 消費者に解ってもらおう試みとしてはよかった。  |
| 5   | 不安に思っていましたので大変良かったと思います。でも全面的に安心という感じではありませんが、少しずつ牛肉(外国産)を増やしていければと思います。  |
| 6   | 意見交換会の必要性はある(BSE以外でも)。適時開催の有用性を感じます。  |
| 7   | 日本のBSEは肉骨粉と決めつけているみたいですが、人間のヤコブ病も100万人に1人と云われていますが、牛にももともとあるのでは？北米大陸で草食のシカで発生している(自然界のシカは肉骨粉は食べていない)ので自然界にあるのではないのでしょうか？イギリスでも最初の一頭(肉骨粉になるまでの)はどこから来たのでしょうか？                    |
| 8   | ・かけすぎるのももう少し時間的にゆとりをもってほしい。又、コピーは用紙にも環境不可が生じるので、渡される資料も十分に考慮してほしい。◎情報を得ることができました。(わかりやすい説明)ありがとう！！※司会の方の声が音になっている事がたびたびあり、話として聞けなかった(何を言っているのか理解に苦しまれた)。                        |
| 9   | 資料は事前配布にして各個人で内容を確認してもらったほうが良い。資料を追いかけるだけの内容だと時間のムダである。もっと質問や意見交換に時間を使ってほしい。人数も対象もしぼり込みする必要がある。消費者団体、生産者、流通などそれぞれ興味のポイントが異なる。   |
| 10  | 行政単位で全頭検査する流れもあるようですので、アメリカの特定部位の除去は(貧富の差が大きく)、いいかげんと思われそうですので、買う側で選定できるようにしてください(パッケージに表示)[基準]。パネルのディスカッションにしたら。あんなら、規制を緩める側だけの答でつまらないし、その方向で話が終わってしまう。そのほうが良いのかな？             |
| 11  | 大変勉強になった。   |
| 12  | 1. 会場案内図が、初めて来る人々は不確実であった。2. 国産牛はほぼ安心して食品になるようだと思いますが、より安全食品として使用できるようお願いします。   |
| 13  | 意見交換時:所々に専門用語が入った説明になっていたため、一般の方には判りにくかったのではないかと思います。   |
| 14  | 時間を気にするあまり、説明不十分な所がある。多少時間をオーバーしても、最後(資料に提示されている部分)まで説明して欲しかった。会場内の音声のまわり方が良くないため、聞きとり難かった(会場問題)。   |
| 15  | 他の疾病に対し、BSEが人に感染してvCJDになる確率は極めて低い。そのような疾病に対し、これほど税金をかける必要があるのかどうか、あらためて考えさせられた。個人的には全頭の特定危険部位さえ除去すれば、月齢に関わりなく、ELISA検査等BSE検査は実施しなくとも良いと考える。                                      |
| 16  | 今後における問題点解決策、検査精度の向上、20ヶ月令以前の牛のプリオン検出について、早急な対応必要。20ヶ月令前の米国産牛が国内輸入されると消費者の牛肉離れが再びおこる可能性が高い。日本での確固たる姿勢が重要である。  |
| 17  | と殺方法についてもう少し検討してほしい(と場の汚染が心配)。  |
| 18  | ・BSE関係に使われている税金が多すぎる。早い段階で消費者に理解してもらい、全頭検査をやめて、21ヵ月以上検査にした方がよいと思う。  |
| 19  | ・講演Iの〇〇氏の説明が途中で終わってしまった感じがした。・食品安全委員会としての輸入牛肉(特に米国)についての今後の安全確保の見通し、考え方について知りたい。政治的には、米国の強引な説明に押されそうになっているように見えて不安。・SRM以外の食用の部分、または牛乳も危険だとの本も出ており不安をかき立てている中で、より正確な情報の提供が必要と思う。 |
| 20  | リスクコミュニケーションの場を設定された事は評価はしますが、時間が短く、早口であわただしく、考える時間がなかった。今まで関東地区は埼玉のみであったので、茨城で行われた点は良いと思います。   |
| 21  | 安全は食品安全委員会のリスク評価、省庁、行政の管理によってもたらされていると思う。100%安全な食品はないと云われても、消費者はやはり100%安全を求めていると思う。その気持ちや理解のギャップを埋める手立てをとっていただきたいし、信頼性を得る政治を進めてもらいたい。   |

水戸2/2

| No. | ご意見・ご感想   |
|-----|---|
| 22  | 表面上の説明、話が聞き取りにくい点が気になりました。また、食品安全委員会の説明の方の尻切れ話はいただけませんでした。しかし、今までは東京、埼玉となかなか行く機会に恵まれなかった点、水戸で開かれたことは、大変良かったと思います。お願いとして、安全委員会のメンバーに、実際、食卓をあずかる消費者の声が、どこまで届いているか心配です。  |
| 23  | 食の安全確保の為、BSE発症のメカニズムと新たな初期感染牛への検査技術が確保されるまで、国として取り組むべき全頭検査は継続して下さい。   |
| 24  | ・国産牛におけるBSE検査体制はほぼ100%に近いということがわかって安心したが、一方、近々輸入再開になるかもしれない米国産牛肉に関しては、まだ不安が残る。・多額のBSE対策費を日本の食糧自給率を少しでも上げることに回してほしいと思う。・終了時間はきっちり守ってほしい(質問はある程度で切ってください)。  |
| 25  | 車で来たため駐車場がせまく、自前にお知らせがほしかった(ハガキにきちんと書いてほしかった)。BSE対策として日本のとっている方針はよいと思っていました。外国にあわせることのないよう、これからも日本国内で独自に対策を立ててほしい。  |
| 26  | リスクコミュニケーションは、より多くの方(専門家、関心のあるなしに関わらず)に、参加の門戸を開かなければならないと思う。今回の意見交換会の広報の仕方に疑問を持ちます。限られた団体や組織にしか、会の開催が知らされないような形は、片寄った方法だと思う。「100%安全な食物がない」が、それに対して「100%安全と言えるように努力すること」を、こういう機会を通じて、共通理解を図らないといけないと思います。正しい情報の開示とそれに対する対策、実効性の確認が、より多くの消費者にとっての「安心」を保障するので、こうした機会をより広く、平易なレベルで行って下さい。 |
| 27  | ・参加資格が届くと同時に資料もほしかったと思います。前もっての理解が得られるのではありませんか。  |
| 28  | リスクコミュニケーションをやったと云う形だけのものにすぎず、説明も自分がわかっていると云う話し方で聞きにくい。役人、官のやる仕方はいつもこの様な形で、がっかりする。もっと時間をかけるべき。  |
| 29  | 何故、日本でBSEの発生があるのか(飼料対策を実施しても)。  |
| 30  | 資料に記載されていることは読めば判ります。もっと深い部分の説明が欲しい。講演者の話し方が聞きにくかった。もっと勉強して下さい。   |
| 31  | 説明される方々の専門知識の豊富さには驚かされます。本当によく検査等されているようですが、マイクを通しての説明が聞き取りにくかったのが残念です。後半の意見交換も、会場からの質問からも聞き取りにくかった。  |
| 32  | 時間の設定に無理があったように思われます。内容の割に対して1項目の時間が少なすぎたのではないのでしょうか。せっかくお話をさせていただくのだから、1つ1つについてもう少し詳しくお話をさせていただきたかった。講演なさる方に、失礼ではないですか？  |
| 33  | (マイク)、聞きづらい。はっきりわからなかった。・具体的に消費者、生産者などに(安全)、もう少しわかりやすく説明してほしい(資料を読むだけでなく)。・生後20ヶ月以前の牛についても全頭検査はしてほしい。   |
| 34  | 肝心の意見交換の時間が少ない。   |
| 35  | ・言葉がはっきり聞き取れませんでした(全員ではありません)。〇〇さんが言っておられました。牛が食べる稲を作る。これは大変良い事だと思います。安全な飼料、そして休耕田の利用として、農業と畜産が手を取り合い、お互いの為、出来る事をするのがベストな状態だと思います。  |
| 36  | 平成16年11月30日以前にと殺された国産牛については対象外とのこと。まだ16年12月1日との期日が短いので市場に前のか多く残っており、それ等に不安がある。輸入牛については個体識別番号が表示してない(スーパー)が、それ等についてはどうか。表示は高齢社会に対応してはっきり分りやすく、直に役立つ表示にしてほしい。牛の生体輸入は何ヶ月位飼育すると国産牛になってしまうのか？  |
| 37  | 参加して良かったです。   |
| 38  | このリスクコミュニケーションの重要度はどのくらいウエイトを置いているのでしょうか。単なる既成事実としての位置付けでは困る。   |
| 39  | ・講演時間が若干短かったような気がする。・質問に対する回答で、歯切れの悪いところや、言葉の聞きにくい部分が残念。  |
| 40  | ・食品の安全性を重視すれば、20ヶ月で区切るのではなく、18ヶ月、12ヶ月というのは考えられないか。・20ヶ月以下は12%とのことだが、24~12ヶ月、12ヶ月以下はどのくらいか…？検査数から比較すると20ヶ月前後はリスクが高いのでは？  |

横浜1/2

| No | ご意見・ご感想   |
|----|---|
| 1  | 講演よりも意見交換会を長くって欲しいと思います。  |
| 2  | 法規制されても運用者の良心を信じるしかないのでしょうか。  |
| 3  | 食に対する安全、安心を一層強めて下さい。  |
| 4  | 食の安全に関する情報を農業関係者・流通業者・農家・消費者に迅速に提供していくことが不安を払拭する一番有効な手立てであると思う。行政機関を活用した情報提供を一層推進して頂きたい(農家etcと触れ合う機会がある)。   |
| 5  | 異常プリオン確認検査を全頭から20ヶ月以上とする根拠が良くわかった。  |
| 6  | リスクコミュニケーションの取り組みは素晴らしいと思いますが、全国何カ所かで関係する団体だけを集めて開催し、それをもって「リスクコミュニケーションをやった」と公表するのはどうかと思う。NHKの日曜討論のようなTV番組で行った方が、各地の狭い会場何カ所かで開催するよりも効果は大きいし、「広く国民に周知した」と言えると思う。最近はメールマガジンも充実しているが、やはりTVに勝るものはない。 |
| 7  | 会場の席が狭い。もう少しゆとりがあってほしい。   |
| 8  | ・会場の選択について、大学等の教育機関を活用していただきたい。・時間について、2:30ではなく、もっと長く取って欲しい。・内容について、海外の状況も包含して欲しい。  |
| 9  | 多数の資料があるにもかかわらず、机が無い事が残念。講話が進行するにつれ、資料に書き込みにくく、出席者に対して配慮が必要である。   |
| 10 | と場の個体識別の話は検査員から直接聞いています。心配ではなく事実です。強い姿勢での対処方お願いします。故意に外すのではなく、面倒だから付けないようです。  |
| 11 | 各省庁毎にパネリストを用意されたためか、資料等にだぶるものが多々あり、その分を省ければ意見交換等に時間ももっと取れると思います。  |
| 12 | 会場は大学の講義室を借りるなどした方が広いし、字が書きやすいし、時間の制約もないのでは。  |
| 13 | 参加人数に対する会場の広さが狭すぎる。メモをとるのも難しい状況であった。指導機関の訴える安全が消費する者の安心につながっていない気がする。安全の信頼回復に努めていただきたい。   |
| 14 | いままで言われていたことを報告されているにとどまっており、BSE検査を21ヵ月今以上にするための布石としか考えられない。特に米国に対しての配慮なのか、折角の日本の対策が崩れる恐れが感じられる。  |
| 15 | ・月齢20ヶ月以下の牛を検査対象からはずす方向だが、プリオンの確認が難しいからといって、安全か安全じゃないのか、科学的に証明できない以上は、検査は続けるべきだ。(食品安全委員会の方は、プリオンが含まれている可能性がある牛肉を食べる気になりますか?)・そもそも食品安全委員会を立ち上げた意味は何ですか?「消費者のため」ではないのですか?消費者の意見をもっと聞き、真剣に考えて下さい。    |
| 16 | BSE発生のメカニズムについては有識者とは思えない非科学的な結論。   |
| 17 | 食品安全委員会では科学的な評価機関なので専門用語が多いのはしかたがないと思うが、厚労省、農水省含め、一般消費者にわかりやすいように基本的なことから、管理措置までの説明をしてほしかった。また説明の時間が短いように感じられた。   |
| 18 | 開催場所が狭すぎる。暖房が強い(省エネで行きましょう)。  |
| 19 | 一般消費者の参加が少ないのは残念。参加者募集方法を一工夫して欲しい。実態が分かって良かった。  |
| 20 | 理解が深まった。わかりやすかったし、現状、意図はわかったということで安全性に対して理解(安全であると思えるようになった)ということではない。都合の良い部分を取っているように思える。基本的な事実の説明が不足(EU等の事例等も日本との条件の差を隠しています)。  |
| 21 | BSE対策について、食品安全委員会主催の意見交換会を通じてリスクコミュニケーションが深まったとして、これまで実施してきた牛の全頭検査を変更するこの判断は、一般消費者がそれをもって納得できるか疑問。もう少し安全性についてのPRをして欲しい。   |



横浜2/2

| No | ご意見・ご感想  |
|----|--|
| 22 | 会場がせまい。  |
| 23 | 10月15日に安全委員会に訪問した内容について、ポイントを絞って明確にした方が良いと感じた(農水はよく分かったが、厚労が今一つ明確でない)。   |
| 24 | 時間がありませんでした。   |
| 25 | 窮屈で疲れた。テーブルがある方が良い。  |
| 26 | 会場は広い所を確保して欲しい。  |
| 27 | 資料が多いのですからテーブルの有る会場を選ぶべき。声が小さく早口でスライドを見るのが大変。  |
| 28 | 若年齢の異常プリオン蛋白質がその他の例の1/500~1/1000と微量である。神奈川県でスクリーニング検査で陽性の事例の高齢牛は、若齢牛の更に1/10程度の量と聞いている。このレベルまで検査できる現在のスクリーニング検査はすばらしい検査と思う。新たな検査方法を導入する場合は、慎重をきってもらいたい。 |
| 29 | 会場をもっと広いところで開催を。   |
| 30 | ・BSE対策(SRM除去、全頭検査、飼料規制)の仕組みはある程度信頼に値すると思うが、各段階での検査体制の実効性確保には若干疑問が残る。・検査体制の実態を聞きたかった。   |
| 31 | ・時間一短すぎた。もう少し時間をかけて欲しい。・場所一もう少し広い場所で行ってほしい。  |
| 32 | 会場に机を用意してほしい。質問・意見を書くのに大変!!早くリスコミを開催したいことはわかりますが、「松の内」は声をかけるのが大変。日時を考えて欲しい。  |
| 33 | 狭いです。食品安全委員会の〇〇氏の講演時に、8例、9例目のWBの結果が、他のものと「バンドパターンが異なる」と表現していたが、バンドパターンが異なるということはバンドの出現位置が変化したことを表してしまうので、「バンドのシグナルが弱まった」というのが正しい表現です。                  |
| 34 | 質問に対する回答がわかりやすく丁寧でよかったですと思いますが、司会者の最後の言葉が聞きにくく、質問事項をもっと明確に表現してください。専門用語の説明をもっと丁寧にした方がよい。ある程度の知識のある参加者にはわかると思うが、専門的なことになると急に説明が速くなる。                    |
| 35 | 一般の消費者、関係者の参加ということですが、かなりBSEに関して詳しい人が集まっていると感じます。リスクコミュニケーションの参加者についても、もう少し考えて進めてほしい。  |
| 36 | 1、感染牛をどのくらい食したら実際に感染するのか。2、1をふまえ、国としてのリスク対応の為の予算配分は適正と考えられるのか。3、「安心」は「信」に属することでもあり、国が積極的に関与してくることに違和感を感じず。「安全」「リスク」で進むべきだろう。                           |
| 37 | 農業、食の実態を消費者に知らせることの必要性を改めて痛感した。特に子供たちへの食農教育は大事であると思う。  |
| 38 | 開催日の設定が県生協連賀詞交換会と重なっていた。事前にお伺いがあったにもかかわらず考慮されていない。   |

さいたま1/2

| No. | ご意見・ご感想   |
|-----|---|
| 1   | 意見交換の時間が若干短いように感じました。   |
| 2   | 机のある会場の方が良かったのではないのでしょうか。   |
| 3   | 表面的に聞いていたことが本日の説明を聞いて理解が深まった。その分、疑問も出てきた。例えばピッシングへの取組状況など。と畜場での全頭検査を21ヶ月齢以上にしたいという諮問については、検査してもみつからないんだから、みつかったのが21ヶ月齢以上だったからというだけでは、緩和する積極的な説明になっているとは思わない。なぜそうしたのか、積極的な説明が必要ではないか。  |
| 4   | SRMの除去について各国で月齢により対応が異なるようだが、輸入牛について同等の処置を求めているのか、また、SRMの除去を月齢毎に変えた場合のリスク評価は行われているのか。   |
| 5   | 会議室とは言わないが、机のある席でメモをとりながら聞きたかったです。ひざの上でメモをとるのは不便でした。次回はよろしく願います。食品安全委員会委員の講演は先生がお疲れなのかもう少し最後の方の説明が必要であったかと思われま。全国で講演なさっていらっしゃるの本当に大変かと思いますが、お体を大切になさって国民に正しい情報を伝えて頂ければと思います。ありがとうございました。  |
| 6   | もっと広い会場でおねがいがしたい。   |
| 7   | 今後も定期的に行ってほしい。消費者と行政にとってとても良い会だと思えます。   |
| 8   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主婦の私などが来る場所ではなかったと、お役人話の報告会のような気がした。</li> <li>・もう少し具体的な生活感のある話などが聞かれると、例えばいつぐらいからアメリカ牛肉が輸入されて市場に出回るのかなど。</li> <li>・検査されることは大変なご努力だというのは分かりましたが、その結果が(アピール方法が)うまく伝わっていないような気がします。悪いことばかりが目について、マスコミの方も言いばなしではなく経過報告や結果報告はきちんと伝えるべきだと思います。</li> </ul> |
| 9   | マイクがもう1本あった方が進行がスムーズ。   |
| 10  | 講演会と言うよりすらすと説明をすれば良いという感じがしました。米国から牛肉輸入を最近特にせまられています、やはりその方向に行くのでしょうか。  |
| 11  | 会場が狭く、良くなかった。   |
| 12  | 活動しているにしても時間が少々おそい。もう少し早く始まり、早く終わってほしい。この交換会はアメリカ牛輸入に道を開くものという懸念を禁じえない。日本では耳標により20ヶ月を確認できるが、アメリカ牛では不可能である。専門家によっても12ヶ月以上の差ならわかるが、6ヶ月位の差はわからないという。今の状態で何故だめなのか。輸入再開でも家庭には入らないだろう。  |
| 13  | 食品安全委員会として取扱いしていつ何らかの結論、しかも現実的な結論を出さねばならないことはわかるが、科学的に説明できない部分の取扱いについて、エイヤツと判断することに若干の懸念を禁じえない。将来科学的知見の向上により、より詳細な因果関係が判明して、実は問題があった(判断に甘さがあった)とされた場合に、判断を下した時点の食品安全委員会のメンバーが将来責任を問われることになりはしないか(エイズ事件のように)心配である。   |
| 14  | 食品安全委員会の考えは、米国牛肉の輸入再開をする為としか思えません。数値だけで判断するのであれば、安全は確保できるかもしれませんが、安心は確保できないと思います。〇〇氏は日本人は心配性だとおっしゃいましたが、あなたはその日本人の食品安全を考える委員の一人なのです。そういう考えの人に食品安全を考える資格は無い。安全と安心は同等だと思います。  |
| 15  | <p>死亡牛検査が15年度から増加したのはBSE特措法で義務づけられたため。<br/>SRMは肉骨粉にして焼却している例もある。<br/>400万tのBSE検査を実施して20か月齢以下は発生しなかったではなく、20か月齢以下の牛〇〇万頭を検査して、20か月齢の牛は検出されなかったである。<br/>「中間とりまとめ」を早くまとめすぎたので今回の答申に対する委員の意見が、まとまらないのではないか。</p>  |
| 16  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. と畜段階の汚水処理法の説明等に事実を正確に伝えていない。</li> <li>2. BSE対策のための費用はどの位かかるのか、また誰が負担するのか、今後はこれだけのリスク回避にはこれだけの金がかかる(費用対効果)を含めて検討してほしい。</li> <li>3. 「100%安全な食品はない」ことを国民は認識すべきである。</li> </ol>  |

さいたま2/2

| No. | ご意見・ご感想  |
|-----|--|
| 17  | <p>専門家の講演内容に検査など専門的な用語を使っでの説明が多く、理解が難しい。<br/>                     マスコミで報道されるのは「BSE牛が発見された」という内容だけで、どの程度の症状でとか、どのような対策が行われているのかという説明がされていないので、今回の講演会は一般的なBSE知識に対する補足的な意味が大きかったように思われた。</p>  |
| 18  | <p>若齢牛の陽性例は、検査方法に問題があったとの印象をうけました。</p>   |
| 19  | <p>意見交換会では、今まで感情的な意見が多かったが、今回は冷静な意見交換ができていたと思う。</p>  |
| 20  | <p>プリオンの研究の現状を知りたい。(牛)異常プリオン1つでも発症するのか、数と発症時間とかなど。</p>   |
| 21  | <p>はっきりしたことを断言していないのでわからない。</p>  |
| 22  | <p>20ヶ月齢以下を除外する根拠として、350万頭検査して一頭も出なかったからとおっしゃっていたが、スライドの説明の中で検査キットの検出感度の限界があるとおっしゃっていたので、一頭も出てないのは当然なのでは。<br/>                     コストの面を考えるなら20ヶ月以下を検査しないよりも30ヶ月未満を検査しないほうがよいのでは。<br/>                     日本で出た21ヶ月と23ヶ月は世界的には認められていないし、日本の学者のエゴとしか思えない。</p> |
| 23  | <p>開会の時間が遅い。遠くからの参加者にとっては帰りの時間が気になる。説明者が早口、「かつぜつ」悪く聞きにくかった。説明のための説明という感じ、「解ろうが解るまいが説明したぞ！」という感じ。</p>   |
| 24  | <p>説明がポイント的にしてほしい時もありました。</p>  |